

には、提供施設名、年齢(何十歳代)、性別、原疾患、カードの記載内容、……の項目です。タイミングとしては、2回目の法的脳死判定が終了した数時間後です。東京の厚生労働省記者クラブで、ネットワークが行います。内容については、2回目の法的脳死判定が終了する頃に、ご家族に実際の内容を確認していただきます。」

- ② 原疾患の公表には細心の注意を払う。
- ③ 家族が情報公開を希望しない項目があれば、その都度、あっせん対策本部と協議し調整する。
- ④ 提供施設でも情報公開(記者会見)を予定している場合は、できるだけ早い段階で家族に伝える(提供施設名非公開の場合は提供施設でも実施しない)。また、内容についても同様に家族の了承を得る。

## 2. 情報公開内容の了承

- ① あっせん対策本部に本例に関する情報公開内容案を書面で作成するよう依頼し、ファックスを受け取る。
- ② 第2回法的脳死判定が終了するまでの間、または終了した直後に、ドナー家族に本例の情報公開内容を書面で確認していただき、了承を得る。
- ③ ドナー家族より情報公開内容の了承が得られたら、あっせん対策本部に報告する。

## Q&A

---

Q1) 家族が全ての情報公開を希望しないという場合は、どのように対応したらよいのか？

A1) ・現状では、脳死下臓器提供においては、社会的に透明性確保のため、個人を特定できない範囲の情報を公開することが求められており、全ての情報公開を希望しないことの受け入れは現実的には不可能である。

・心停止下の臓器提供では情報公開が必須でないことを伝え、家族が選択できるようにする。

### [第○例目の脳死下での臓器提供事例について]

- ドナーの方は、(△△△△病院)に入院中の△△歳代の△性の方。
- ドナーの方の原疾患は、△△△△△△である。
- ドナーの方は、臓器提供意思表示カードに脳死下での臓器提供の意思を表示。提供臓器として心臓、肺、肝臓、腎臓、膵臓、小腸に○がある。「その他の項目は、眼球と記載」  
ご本人の署名、ご家族の署名がある。記載時期は、△△△△年 △月。
- 日本臓器移植ネットワーク東日本支部に、提供施設より連絡があったのは、△月△日 △△時△△分である。
- 日本臓器移植ネットワークのコーディネーターが説明を行った上で、△月△日△△時△△分にご家族から脳死判定承諾書及び臓器摘出承諾書を受領。
- ご家族からは、心臓、肺、肝臓、腎臓、膵臓、小腸の提供についてご承諾を得た。
- △月 △日 △△時△△分、第一回法的脳死判定を開始。
- △月 △日 △△時△△分、第一回法的脳死判定を終了。その結果、判定基準を全て満たしていると判定された。
- △月 △日 △△時△△分より第二回法的脳死判定を開始。
- △月 △日 △△時△△分に第二回法的脳死判定を終了し、法的に脳死と判定された。

## Ⅱ-7 提供直後の対応

### 目的

---

1. 家族に臓器摘出終了の報告を行い、謝意を表す。
2. 提供したことに対する家族の心情を確認し(否定的な感情については対応に注意する)、関係者の対応について意見があれば伺う。
3. レシピエントの経過報告や厚生労働大臣の感謝状授与の希望の有無を確認する。

### 注意事項

---

1. 家族の死別悲嘆に配慮した言動を心がける。
2. 親類・友人・知人等に提供について知られたくない場合もあるので、慎重に対応する。
3. 臓器提供後の遺体の状態を確認し、外見上の処置(特に眼球提供後の顔貌)に十分配慮する。
4. 個人情報の取り扱いには十分に留意し、個人を特定できるような情報は伝えない。

### 方法

---

1. 家族への報告
  - ① 臓器提供に対する感謝の気持ちを表す。
  - ② 摘出手術が終了したことを報告する。
  - ③ 臓器の状態について説明する(移植できるのかどうか、移植に適さないと判断された場合はその理由、遺体に戻したことなど)。
  - ④ 遺体がどのような状態であるか説明する(ガーゼ保護の状態等)。
  - ⑤ 今後のレシピエントの経過報告を希望されるかどうか確認する〔Ⅲ-4参照〕。
  - ⑥ 厚生労働大臣の感謝状の授与について確認する。
  - ⑦ 家族の承諾を得た上で、Co や摘出医は遺体のお見送りをする。
  - ⑧ 葬儀については、家族の状況や地域性を考慮し、参列するかどうか検討する。参列する場合やお花やお香典を送る場合は、予め家族の了解を得る〔Ⅲ-6参照〕。
  - ⑨ 移植直後の報告を希望するかどうか確認し、全ての移植手術が終了したことをあつせん対策本部に確認し、家族に電話等で連絡する(誰にいつ連絡するかを予め確認する)。悪い結果報告を望まない家族もいるので、事前に確認する。

## Ⅱ－8 その他(臓器提供以外の懸念に対する対応)

### 目的

1. 臓器提供以外のことで家族に懸念や心配事がある場合、適切なリソースを用いて対処する。

### 注意事項

1. 臓器提供以外のことであっても家族の懸念や心配事が臓器提供への思いに影響することもある。
2. 安請けあいしない。安易な対応は信頼関係に悪影響を与えることがある。
3. 把握した事柄については、提供施設関係者と相談の上、最善の対応をする。

### 方法

1. 葬儀社の手配や着物の準備
  - ① 提供施設で死亡退院の際に通常行われている方法に従う。
2. 治療費の支払い
  - ① 提供施設の医事課やソーシャルワーカーに対応してもらう。
  - ② 法的脳死判定、臓器提供にかかる費用については費用配分で賄われるので、提供施設側にその旨伝え、患者請求されないようにする。
3. 家族の健康管理
  - ① 待機中に体調を崩すことがあれば、必要時、提供施設で治療が受けられるように提供施設関係者に伝える。
  - ② 飲食が適切にできているかどうか、家族に確認する。必要があれば、提供施設と相談の上、準備する。
  - ③ 上記にかかわる費用は、脳死下臓器提供関連費用交付規程の対象になる。

### Ⅲ-1 ケアのステージ

#### 解 説

---

本項では、脳死下臓器提供の過程における家族の心情、それに対する対応について、段階化して説明する。

## Ⅲ-2 提供したことへの思い(否定的感情が強い場合の対応)

### 目的

1. 臓器提供後の家族の心境を把握し、提供を肯定的にとらえられるよう支援する。
2. 特に、否定的感情が強い場合は、その根本的理由は何かを把握し、適切に対処する。

### 注意事項

1. 提供したことに対する家族の心情を確認し、関係者の対応、マスコミからのアプローチ等で嫌な思いをしていないか、意見がないか伺う。
2. 特に、否定的感情が強い場合は、あらゆる家族の思いを引き出し、その中から何が根本的理由なのかを慎重に判断する。
3. 不用意に家族の思いに同情したり、推測で物事を語らない。
4. 否定的感情が強すぎる場合や病的悲嘆が生じている場合など、Co の対応でカバーできるかどうか冷静に判断する。必要があれば、他のリソースを利用する。
5. ドナーが亡くなった喪失感に対する感情と臓器提供したことに対する感情が混同している場合があるため、整理がつくように話を引き出すことを心掛ける。
6. 死別後に家族関係に変化が生じる場合がある。
7. 家族フォローの様子は書面に残し、関係者で共有する。

### 方法

1. 家族の心情把握と対応
  - ① 提供後の家族の心境や生活状況、健康状態など、対話や文面から把握する。
  - ② 家族の臓器提供自体に対するその時点での思いを確認する。
  - ③ 家族が臓器提供に対して肯定的な思いであっても否定的な思いであっても、その事実は傾聴し受け止める。
  - ④ 否定的感情が強い場合、その感情の理由は何かを把握するため、家族との対話や手紙のやり取り等で可能な限り情報収集する。
  - ⑤ Co 間で情報を分析し、家族に対して今後の関わり方を検討する。家族の居住地が提供施設所在地と離れている場合は、居住地の Co がフォローを担当することも一法である。
  - ⑥ 家族への関わりが Co で対応できる範囲である場合は、その通り対応する。(正確な情報提供、同じ体験をした家族の思いの共有化・ドナーファミリーの集いの存

在・自助団体の紹介、Coとの交流等)

- ⑦ 家族への関わりが Co で対応できる範囲でない場合は、専門家へのコンサルトなどを検討することも必要である。

## Q&A

---

Q1) 提供したことについての是非について

A1)・ 家族の複雑な思いを傾聴、共感する。

「つらい状況の中で、ご家族としてご本人の意思を尊重し、大変な決断をされましたね。そのような状況の中で決断されたことはとても大きなことではありますが、提供して良かったのかと思われるお気持ちも無理ないことですよね。」

- ・ 気持ちの動揺については、人の気持ちはその時々で変わるものであること、今は否定的に考えられても、あの時に家族で決断したことに間違いはないこと、時間や今後の過ごし方によって思いも変わってくるであろうことを伝える。
- ・ レシピエントの経過や感謝の言葉を伝えたり、サンクスレターを届けるなどして、移植の成果を実感していただく。

「5人の方が移植を受けることができ順調に経過されています。今までベッド上で長い月日を過ごしてきた人が社会に戻ることができました。これは提供されたご本人とご家族のご理解のおかげです。」

- ・ 家族の総意である臓器提供を支持する声かけをする。
- ・ 本人の意思が叶えられたことを強調する。

「ご家族の決断があったからこそ、本人の最後の意思を活かすことができ、ご本人も喜んでおられるのではないのでしょうか。」

Q2) ドナーを傷つけたという気持ちに対して

A2) レシピエントの経過を伝え、家族の決断に大勢の方が感謝していることを伝える。

「ご本人は意思を活かしてくれたご家族に感謝されているのではないのでしょうか。」

「我々はご本人の意思は他の方を救われる厚意でとても尊いことであると思っていますし、大変辛い心情の中でご本人の意思を尊重することを決断されたご家族に敬意を表しています。」

「ご本人の提供の意思を叶えるために、手術はどうしても必要でした。」

Q3) 提供について話せる人がいないことについて

A3)・ドナー家族の集いの存在やドナー家族の自助団体を紹介する。

- ・ドナー家族の手記・本などを渡し、同じ経験を持つ家族の思いとして情報提供する。ただし、それぞれの家族の思いは乖離する場合もあるので、1例であることに留意する。

- ・Coは家族の一番のサポーターでありたいという姿勢を示す。

「臓器提供がまだ一般的でないので、気軽に話せることがないかもしれませんね。私はいつでもご家族の話を知りたいと思います。お話したかったらいつでも連絡くださいね」

Q4) 提供したことを周囲から理解されなかったことについて

A4) ネットワークの社会に対する理解への働きかけが不十分であることを詫び、ネットワークの取り組みについて説明する。

「日本では臓器提供についてまだまだ誤解が多いのが現状です。今後もっと臓器提供について理解が得られるよう、私どもも一般への普及啓発に努めたいと思います。」

「周囲の対応は私も残念に思います。おつらいですよ…。でも、提供されたご本人が一番理解されていることと思いますよ。」

Q5) 死別後の日常生活や社会生活における支障について

Q5) 家族を取り巻く環境や周囲のサポート状況を伺い、行政機関や公的福祉事務所などを紹介する。



### Ⅲ-3 故人への慕情・喪失感・悲嘆への対応

#### 目 的

---

1. 家族の故人への思慕、喪失感や淋しさなどの悲嘆に適切に対応する。
2. 故人が子どもであった場合の家族の反応に適切に対応する。

#### 注意事項

---

1. 故人への思いが募り、その喪失感や淋しさが生じ、悲嘆にくれるということは当然のことであると同時に、故人への思いを大切にしていくという喪の作業として大事なプロセスでもあるので、慎重に家族の気持ちに配慮する。
2. 日常生活に支障を来し、社会的引きこもり状態や社会適応が困難になることが長く続くようであれば、複雑性悲嘆という悲嘆反応の可能性もあるので注意する。
3. 死別体験により、それまでは顕在化しなかった精神的な脆弱性が症状化することがあるので、その点の見極めをするように努める。
4. 死別に対して、家族の自責念慮が強いこともある。特にドナー家族は、突然死で時間経過が長くないことがほとんどなため、その後の周囲の対応によってより強く出る可能性が高いので注意する。
5. 原疾患が複雑だったり(自殺など)、故人が子どもであった場合は、周囲の人の関わりが慎重になることが多い(そっとしておくという配慮が家族の孤独感となることもある)。逆に、臨床において関わりのあった Co は、家族が安心して入院時のことを話せる重要な存在になりうることに留意する。
6. 故人が子どもであった場合は、複雑性悲嘆のほかに、自責感、無力感、抑うつ感、怒りなどが長引くことがある。特に母親は、その症状が多く現れることに留意する。また Co も、共感のあまり、その思いにとらわれ易くなることがあるので、注意が必要である。
7. 故人が子どもであった場合は、家族関係に大きな変化が起こることがあるので留意する。

#### 方 法

---

1. 故人についての良い思いはもちろん、否定的な思いが語られた場合も、基本的にはそれを否定せず傾聴に努める。しかし、否定的な思いで終わらせることはできるだけ避ける。
2. 家族が自責や無力感、存在の空しさを語った時も、すぐに打ち消すことなく、まず

- 傾聴する。しかし、「もっと何かできたはずだ」、「自分がいけなかった」という思いは聞き流さず、家族としてきちんと充分のことをしたことを伝える。
3. 孤独感や喪失感、淋しさなどが語られた時には一般化(「誰でもそうである」とか、Coの経験を語ることなど)はしない方がよい。しかし、家族より「自分の反応は異常ではないか」という疑問がでた場合には、一般化は有効である。
  4. 家族会への参加は有効であるが、個人によって参加の希望の有無や時期など違いがあるので、紹介でよい。
  5. 複雑性悲嘆というような悲嘆反応の場合は、精神科または心療内科へ紹介することが望ましい。

## Q&A

---

Q1)ドナー家族にどのように医療に紹介したらよいか？

A1)精神的な面からよりも、身体面(不眠・食欲不振など)から医療の紹介に入る方が、抵抗が少ない。また、地域やそれまでの経験から、精神科・心療内科を受診することに抵抗のある家族もあるので、初めはどこかに相談してみないかというところから聞いていく。受診に対する不安内容を聞き、地域の適切な医療機関(かかり付け医、精神科、心療内科)や相談機関(保健所、精神保健センター、カウンセリングルーム)を紹介できるようにリストを用意しておく。

Q2)故人についての話などが家族から全く出ない場合、故人の話や家族の今の気持ちを積極的に聞いたほうが良いか？

A2)日常会話を大切にしていく。家族は其中で話せる時を見計らっているので、無理にこちらから話を向ける必要はない。

## 参 考

---

E. グロールマン 悲しみの諸相

親の死	あなたの過去を失うこと
配偶者の死	あなたの現在を失うこと
子どもの死	あなたの未来を失うこと
友人の死	あなたの人生の一部を失うこと

「愛する人を亡くした時」 E. グロールマン 春秋社

Holmes&Rahe 生活とストレス(ライフイベント)  
表

## Ⅲ-4 レシピエントの経過報告、サンクスレター

### 目的

---

1. レシピエントの経過については、家族の要望・意向に沿って報告する。
2. レシピエントの経過報告やサンクスレターによって、家族が提供したことを肯定的にとらえられるようにする。

### 注意事項

---

1. レシピエントの経過報告やサンクスレターを望まない家族も居るので、必ず院内対応時に確認しておく〔Ⅱ-2、7参照〕。
2. 個人情報の取り扱いには十分に留意し、ドナー家族およびレシピエント双方を特定できるような情報は伝えない。
3. 死別後は家族関係に変化が生じる場合があるので、報告先に配慮する。
4. 死別後初期の場合は、家族がレシピエントの良好な経過を素直に喜べないこともある。

### 方法

---

1. レシピエントの経過報告
  - ① 臓器提供後の経過報告を必要とするか否か、誰にすればいいかについては、院内対応時に家族のキーパーソンに確認しておく。
  - ② 経過報告の方法は主に手紙、電話、訪問である。
  - ③ 報告時期は、概ね提供直後、提供1ヶ月後、3ヵ月後、6ヵ月後、1年後であるが、家族の要望に応じて臨機応変(頻度、期間)に対応する。
  - ④ 生着している場合は、レシピエントの生活の様子や具体的な言葉、レシピエント本人・家族の深謝を伝える。家族が移植の成果を実感できるように報告する。
  - ⑤ 廃絶・死亡という悪い知らせの場合は、家族が聞きたいと思っているかどうかを確認する。家族に伝える場合は、結果だけでなく、移植者とその家族が移植の機会を得てどれだけ感謝していたかも合わせ伝える。
2. サンクスレター
  - ① 家族に受け取るか否かを確認して、郵送・訪問にて渡す。
  - ② サンクスレターに個人を特定する文面がないか、表現に不適切な箇所がないかを確認する。

- ③ サンクスレターにお花券や手作りグッズ等のギフトが同封されている場合、内容を確認した上で渡す。

<資料> Coから家族にレシピエント経過を報告する手紙サンプル

### ドナーファミリーに手紙を書くときのポイント

- \* 移植者の様子を生き生きと伝えられるように書く。移植前後の体調や心情的の違いなどに触れる。移植者だけでなく、その家族の心情、喜びにも言及する。
- \* ドナーやその家族の宗教・信教に注意する。例：仏教徒なら「ご仏前にご報告ください」でよいが、その他の宗教には使わない。「ご霊前」は宗教を問わず使える。
- \* 名前を用い、語りかけるようにすると、温かく、親しみがわく。
- \* 移植者の経過報告において医学用語を用いる場合は、わかりやすい表現で補足する。
- \* 廃絶、死亡など悪い結果の場合、ドナーファミリーの要望に応じ、報告する。その際、移植者やその家族の感謝の気持ちを代弁する。
- \* 便箋、封筒にも気遣うことも良い(故人の好きだった花や季節を感じさせるイラストの載ったもの、和紙など)。
- \* ワードプロで書くときは、署名を自筆にする。

### ドナーファミリーへの移植後経過報告の手紙例

<ドナーファミリー氏名> 様  
ご家族の皆様

拝 啓

心せわしい年の暮れとなってまいりました。いかがお過ごしでしょうか。

<ドナー名>様からご提供いただいた臓器の移植を受けられた方々も、おかげさまで半年を迎えることができました。最新の経過をお知らせいたします。

心臓の移植を受けられました\*歳代の<性別>性は、入院中からの夢でもありましたラーメンを食べることができ、移植して4ヶ月後の\*月\*日に約2年振りに自宅に帰ることができたそうです。現在は家事を手伝ったり、ショッピングに出かけたり、とても元気に過ごしておられるそうです。

肺の移植を受けられました\*歳代の<性別>性は、現在、自宅で療養されています。入院生活が長かったので、自宅でのんびりと、ご家族と過ごせることが一番うれしいそうです。以前は階段を上って2階に行くのも大変だったのが、今では楽に上り下りできるそうです。就職を目指して、来年度は職業訓練校の受験を考えておられるそうです。

肝臓の移植を受けられました\*歳代の<性別>性は、定期検査でも問題なく、順調にすごされています。闘病中の夢であったお子さんとの1泊旅行にも行くことができ、ご家族と一緒に過ごせる時間にとっても感謝されています。

脾臓と腎臓の同時移植を受けられました\*歳代の<性別>性は、退院後、お仕事

に復帰されましたが、約2ヶ月前にむくみと腎臓の機能を示すデータが上昇し、突然尿が出なくなりましたので、再入院されました。検査の結果、腎臓の動脈の一部に狭窄(狭くなり、血液の通りが悪くなること)が認められ、バルーン(細い管を動脈内に入れ風船を膨らませる処置)で狭窄部分を広げたところ、すぐに改善、約1週間で退院され、現在お仕事にも復帰され、お元気に過ごしていらっしゃいます。

腎臓の移植を受けられました\*歳代の<性別>性は、11月下旬に腹壁ヘルニアの根治手術をされたそうです(移植とはまったく関係のない持病です)。その際に行なった腎臓の検査でも、拒絶反応は認められず、お元気にされているそうです。今年の酷暑も、透析時代は取れなかった水分をいっぱい取って、難なく過ごせたそうです。

5名の方々が臓器移植を受けられてから半年以上経ちました。この間にそれぞれ色々なことがあったようですが、現在のところお元気にされております。移植を受けられた方々とそのご家族は、移植を受けられた当初から提供されたご本人様とそのご家族に感謝の気持ちでいっぱいであったと聞いております。どうぞ<ドナー>様にもお伝えいただきますよう、お願い申し上げます。お優しい方でいらしたとのことなので、喜んでくださるのではないのでしょうか。

<ドナー>様の臓器提供を通じて、移植を受けられた患者様とそのご家族、病院関係者はじめ多くの方々、そして私たちコーディネーターに対しても、思いやり、やさしさ、たくさんの豊かさを与えてくださったと感じております。

年の瀬も迫り、日々お忙しいことと存じます。ご家族の皆様におかれましては、体調を崩されませぬよう、くれぐれもご自愛ください。また、皆様が平穩に過ごされることを心からお祈りしています。

次は、移植後1年目の経過をご報告させていただこうと思います。もし移植の経過が気になったり、何か心配なことがあれば、いつでもご連絡ください。

敬 具

平成\*年\*月\*日

臓器移植コーディネーター  
<氏名>

### Ⅲ－５ 第三者検証会議

#### 目的

---

1. 家族に第三者検証会議について説明し、検証内容の確認のために、厚生労働省臓器移植対策室に氏名と住所、連絡先電話番号を伝えることについて了承を得る。

#### 注意事項

---

1. 家族への IC 時または院内対応時に第三者検証会議について触れておく。
2. Co が家族に連絡をとる段階は、厚生労働省臓器移植対策室に氏名と住所、連絡先電話番号を伝えることについて了承を得る段階であり、検証内容を確認することの了承を得る段階ではないことを認識し、連絡をとる。

#### 必要物品

---

1. 家族の氏名と住所、連絡先電話番号

#### 方法

---

1. 家族への連絡
  - ① 厚生労働省臓器移植対策室より、ネットワーク(医療本部から支部)経由で、家族担当 Co に、検証内容の確認のために、厚生労働省臓器移植対策室に氏名と住所、連絡先電話番号を伝えることについて了承を得るよう依頼がある。
  - ② 家族担当 Co は、家族に連絡をとり、第三者検証会議について説明し、専門家による検証報告書(案)が作成された旨を説明する。
  - ③ その内容を家族に確認していただくため、厚生労働省臓器移植対策室より連絡が入る旨を説明する。
  - ④ それに際して、厚生労働省臓器移植対策室に氏名と住所、連絡先電話番号を伝えても差し支えないか確認し了承を得る。
  - ⑤ 家族に連絡が取りやすい時間帯や希望などがあれば確認する。
  - ⑥ 家族が厚生労働省臓器移植対策室に伝えることを希望しない場合、その理由を確認する。
2. ネットワーク医療本部への連絡
  - ① 厚生労働省臓器移植対策室に家族の氏名と住所、連絡先電話番号を伝えることに関する了承の諾否を報告する。



- ② 了承が得られた場合、家族に連絡が取りやすい時間帯や希望などがあれば伝える。
- ③ 了承を得られなかった場合、その理由を伝える。
- ④ ネットワーク医療本部より厚生労働省臓器移植対策室に上記の連絡を入れる。

## Q&A

---

Q1) 検証内容の確認は必ずあるのか？

A1) 現段階では検証内容の確認は必ずあるので、家族担当 Co より連絡が入る。

Q2) 検証内容の確認の時期はいつ頃？

A2) 提供施設への医学的検証が行われるのが臓器提供の約 1 年後、検証報告書(案)が作成されるのは、約 1 年数ヶ月～1 年半後となるので、その時期での確認となる。

<資料> 検証会議の設立経緯、意義など

## 今後の脳死下での臓器提供に係る検証の在り方について

脳死下での臓器提供事例については、これまで厚生労働大臣が参集する「脳死下での臓器提供事例に係る検証会議（座長 藤原研司埼玉医科大学教授）」において検証を行い、6月15日の会合で第10例目の事例の検証を終了したところである。第11例目以降の事例に係る検証については、当面次のような方向で関係者と調整したい。

個別事例に係る検証は次のとおり3分野ごとに行い、それらの結果を厚生科学審議会疾病対策部会臓器移植委員会に報告し、問題事例については同委員会においてあらためて検証を行うものとする。

1. 救命治療、法定脳死判定等に係る医学的検証については、移植関係学会合同委員会の承認を得た上で、同委員会に小委員会を設けて行う。
2. 臓器あっせん業務の検証については、（社）日本臓器移植ネットワークの中央評価委員会において行う。
3. ドナー家族の心理的ケアについては、厚生科学研究として、精神医学の専門家等に研究を委託する。

（理由）

- （1）医学的検証及びあっせん業務の検証については、これまでの検証結果によりガイドラインの改正等の措置を講じてきており、最近の事例では救命治療、法的脳死判定、臓器のあっせん業務等は適正に行われている。
- （2）移植医療は、心臓移植に高度先進医療が適用される等、ほぼ一般の医療として国民に定着してきている。
- （3）以上のことから、医学的検証及びあっせん業務の検証に関しては、問題の有無を問わずすべての事例について厚生労働大臣が参集する会議において検証する必要はないが、引き続き国民の信頼を確保するため、当面、それぞれの分野に詳しい専門家による検証とその結果の公表を行うことが適当である。
- （4）ドナー家族の心情等の把握については、事例発生後拙速に行うことが必ずしも適当ではなく、経験のある精神科医等がある程度継続的にフォローする必要がある。また、その心理的ケアについては、心停止下でのドナー家族を含め、精神医学的な研究と対応策についての検討が必要である。

## Ⅲ－6 その他

### 目 的

---

1. 脳死下臓器提供後に家族に生じる問題に適切に対応する。
2. Coとしてのフォローを適切な時期に終了させる。

### 方 法

---

#### 1. 葬儀の参列

- ① 葬儀への参列は、家族の了解を得て行う。摘出術中から退院の間でお迎えの手配が整った後(あまり早くに聞かない)、参列の可否、葬儀の日時、斎場について家族に確認する。
- ② 宗教・宗派に気をつける。
- ③ 斎場での記名、香典等の表書き、供花の名札には注意する。臓器提供について知っているのが近親者に限られている場合、「移植」という言葉があると臓器提供をしたことがわかってしまうかもしれないため、所属長や自身の個人名のみを書くといった配慮が望ましい。

#### 2. マスコミにより家族が不快な思いをした場合の対応

- ① 提供後のフォローの中で、家族がマスコミにより嫌な思いをしていないか、確認する。  
例) 電話連絡、取材依頼、自宅訪問、不愉快な記事、  
記事を見た第三者の反応 等
- ② 不快な思いをしていて「何か対処してほしい」という要望があれば、詳細を確認の上、ネットワーク支部・医療本部と対応を相談する(マスコミに対する文書等)。

#### 3. 臓器提供以外のことで問題が生じている場合の対応

- ① 提供後のフォローの中で、家族が日常生活を再建できているかどうか、近況を確認する。
- ② 死別悲嘆による問題への対応については、Ⅲ－3、Ⅳ－1・2・3参照。
- ③ 周囲の不理解や誤解による問題への対応については、Ⅲ－2参照。
- ④ 家族・親族間、事故の場合の加害者とのトラブル等の対応については、傾聴の姿勢のみ。原則、Coとして関われる限界は臓器提供に関してと心得、自分

の役割以上のことに不必要に介入しない。家族から過多に対応を求められる場合は、Coとしての職務、姿勢、できる範囲をきちんと説明する。社会的リソース(行政機関、福祉事務所、NPO 等)の利用が可能な場合もあるので、知識として得ておくといよい〔IV-2参照〕。

- ⑤ 問題が複雑・困難な場合は、個人で対応しようとせず、ネットワーク支部・医療本部と対応を相談する。問題は必ず共有し、自己判断ではなく、複数名による検討で解決を試みるのが望ましい。

#### 4. Coとしてのフォローの終了

- ① 臓器提供にまつわるCoとしてのフォローは、適切な時期に離脱するのが健全である。
- ② その時期の見極めは難しいが、家族が臓器提供を肯定的にとらえている、レシピエントの経過報告はもう要らない、死別後の生活が再建できており健全に営まれている等が確認できた場合と考える。複数名のCoで判断すると良い。
- ③ Coからの連絡は終えるとしても、家族からの連絡に対しては常にオープンでいられるように、Coの連絡先を伝えておく。離職の際には、必ず後任者に引き継ぐ。
- ④ 脳死下臓器提供の場合は、第三者検証会議、サンクスレターなどで、心停止後提供よりも家族と交信する期間が長い傾向にある。
- ⑤ ドナーファミリーの集い等の案内は、家族の要望に応じて行う。
- ⑥ ドナー家族の中には、自身の体験を社会に発信し普及啓発の一役を担うことが臓器提供の肯定的意味づけにつながることもある。そのような場合は、講演会等の機会に協力してもらおうと良い。

#### Q&A

---

Q1) Coが接触することも、故人を思い出すことにつながると、自宅訪問も拒まれ、経過報告は手紙でお願いしたいと言われたら？

A1) それ家族のニーズなので、その通り対応する。手紙は、いつでも好きなときに開封(または未開封。受け手が選択可能)でき、電話や訪問と違い相手の時間に干渉しないという利点がある。手紙では文面に注意し、押し付けがましくなく、家族を気にかけていること(労い)、いつでも連絡してくれて良いこと(オープンさ)などを伝えると、家族にとってはサポートと感じられることもある〔III-4参照〕。